

「新型コロナウイルス感染症」競技大会開催時の感染防止対策
(ロードレースガイドライン)

(一社)埼玉県自転車競技連盟では大会開催にあたって、新型コロナウイルス感染症の感染防止の為に、日本スポーツ協会・日本自転車競技連盟・開催地行政の指針などにに基づき、ガイドラインを策定しています。大会参加者および競技役員は、以下をよく読み、ご理解いただくようお願いいたします。

主催者が実施すべき事項

(1) 大会参加者募集時の対応

- *主催者は、参加募集に際し感染拡大の防止のために遵守すべき事項に協力を求めます。
これを遵守できない参加者には、他の参加者の安全を確保する等の観点から、スポーツイベントへの参加を取り消したり、途中退場を求めたりすることがあり得ます。
- *以下の事項に該当する場合は、自主的に参加を見合わせることをお願いいたします。
(イベント当日に書面で確認を行う。)
 - 体調がよくない場合。(例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合)
 - 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合。
 - 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合。
 - 大会会場へ入場を想定される場合は「氏名・年齢・住所・連絡先」「大会当日の検温結果」が確認できない方、「過去2週間における該当事象のある方」がある場合。
- *マスクを持参すること。(参加受付時や着替え時等のスポーツを行っていない際や会話をする際にはマスクを着用すること。)
- *こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること。
- *他の参加者、主催者スタッフ等との距離(できるだけ2m以上)を確保すること。
(障がい者の誘導や介助を行う場合を除く)
- *イベント中に大きな声で会話、応援等をしないこと。
- *感染防止のために主催者が決めたその他の措置の遵守、主催者の指示に従うこと。
- *イベント終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して、速やかに濃厚接触者の有無等を報告すること。
- *イベント前後のミーティング等においても三密を避けること。
- *スタートリスト・組合表・リザルト・コミュニケ等はWebでの開示とするため、これらを確認できるようにすること。

(2) 競技役員が準備すべき事項

- *競技役員は「氏名・年齢・住所・連絡先」「大会当日の検温結果」「過去2週間における該当事象の有無」の確認を行う。

「別紙」

- 大会前2週間の平熱を超える発熱の有無。
- 発熱、咳、咽頭痛などの症状がある場合。
- 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合。
- 過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合。

- *大会前2週間の平熱を超える発熱の有無を記録する。
- *競技役員滞在する場所は十分に広く、換気に配慮する。
- *ミーティング会場は密にならない配慮をする。
- *各所に手指消毒液を配置する。(競技集計場所・スタート地点・救護所・選手招集場所)
- *選手・スタッフが触れる頻度の高い場所(テーブル・椅子・ドアノブなど)定期的に消毒する。
- *競技役員・スタッフはマスク着用を原則とする。(予備の準備)

(3) 当日参加受付時の留意事項

- *受付窓口には、手指消毒剤を設置すること。
- *発熱や軽度であっても咳・咽頭痛などの症状がある人は入場しないように呼び掛けること。
(症状によっては、発熱者を体温計などで特定し入場を制限することも考えられる)
- *人と人が対面する場所は、アクリル板、透明ビニールカーテンなどで遮蔽すること。
- *参加者が距離をおいて並べるように目印の設置等を行うこと。(テープを張る)
- *受付を行うスタッフには、マスク・手袋を着用させること。
- *インターネットやスマートフォンを使った電子的な受付の一層の普及を図り、受付場所での書面の記入や現金の授受等を避けるようにすること。
- *当日の受付のほか、イベント前日の受付を行うなど当日の混雑を極力避けること。
- *参加者から以下の情報の提出を求める

- 氏名、年齢、住所、連絡先(電話番号)※個人情報の取扱いに十分注意する
- 利用当日の体温
- 利用前2週間における以下の事項の有無
 - ・平熱を超える発熱
 - ・咳(せき)、のどの痛みなど風邪の症状
 - ・だるさ(倦怠(けんたい)感)、息苦しさ(呼吸困難)
 - ・嗅覚や味覚の異常
 - ・体が重く感じる、疲れやすい等
 - ・新型コロナウイルス感染症陽性とされた者との濃厚接触の有無
 - ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - ・過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合

- *ライセンスカードの提示およびゼッケン番号を申し出てもらい、ゼッケンを渡す。
- *ライセンスカードは受け取らず、目視で確認する。
- *受付時間は各カテゴリースタート30分前までとする。

「別紙」

(4) 当日の参加者への対応

*マスク等の準備

- ・参加者がマスクを準備しているか確認すること。
- ・参加の受付、着替え、表彰式等の運動・スポーツを行っていない間については、マスクの着用を求めること。(運動・スポーツ中のマスクの着用は参加者等の判断によるものとする)
- ・落車発生時は現地帯同看護師の初期対応を迅速に実施(新型コロナウイルス感染防止を念頭に関係医療機関、消防と協議しておく)
- ・感染拡大が懸念される場合は、即時中止判断する。
(中止判断は、主催者側の大会委員長・総務委員長・競技委員長・有識者により決定する)

(5) 参加前後の留意事項

- *イベントの前後のミーティングや懇親会等においても、三つの密を避けること。
- *会話時にマスクを着用するなどの感染対策に十分に配慮すること。

(6) 大会会場の整備事項

*手洗い場所

- ・手洗い場には石鹸(ポンプ型が望ましい)を用意。
- ・「手洗いは30秒以上」等の掲示をする。
- ・手洗い後に手を拭くためのマイタオルの持参をすること。
- ・手洗いが難しい場合は、アルコール等の手指消毒剤を使用すること。

*洗面所

- ・トイレ内の複数の参加者が触れると考えられる場所(ドアノブ、水洗トイレのレバー等)についてはこまめに消毒をすること。
- ・トイレの蓋を閉めて汚物を流すよう表示すること。
- ・手洗い場には石鹸(ポンプ型が望ましい)を用意すること。
- ・「手洗いは30秒以上」等の掲示をすること。
- ・手洗い後に手を拭くためのマイタオルの持参をお願いする。

*飲食物の摂取時

- ・参加者が飲食物を手にする前に、手洗い、手指消毒を行うよう声を掛けること。
- ・スポーツドリンク等の飲料についてはペットボトル・ビン・缶や使い捨ての紙コップを使用すること。
- ・飲食物を取り扱うスタッフにはマスクを着用させること。

*観客の管理対応

- ・「無観客」開催とする。

参加者が実施すべき事項

(1) 参加者・参加者スタッフが遵守すべき事項

- *以下の事項に該当する場合は、自主的に参加を見合わせることをお願いいたします。
(イベント当日に書面で確認を行う。)

「別紙」

- 体調がよくない場合。(例：発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合)
- 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合。
- 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合。
- マスクを持参すること（参加受付時や着替え時等のスポーツを行っていない際や会話をする際にはマスクを着用すること。）。)
- こまめな手洗い、アルコール等による手指消毒を実施すること。
- 他の参加者、主催者スタッフ等との距離（できるだけ 2 m 以上）を確保すること。（障がい者の誘導や介助を行う場合を除く。）
- イベント中に大きな声で会話、応援等をしないこと。
- 感染防止のために主催者が決めたその他の措置の遵守、主催者の指示に従うこと。
- イベント終了後 2 週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して、速やかに濃厚接触者の有無等を報告すること。
- イベント前後のミーティング等においても三密を避ける。

(2) 参加者が競技を行う際の留意点

*十分な距離確保

- ・競技をしていない間も含め、感染予防の観点から、周囲の人となるべく距離（2 m）を空けること。（介護者や誘導の必要な場合を除く）
- ・自転車競技は強度が高いことから、呼吸が激しくなる場合がある。より一層距離をあげ、細心の注意を払う。

*スタートまでマスク着用

（・ロードはスタート 30 秒前まで ）

- *練習走行中及びクールダウン中においては、前の人の呼吸の影響を避けるため、可能な限り前後一直線に並ぶのではなく、並走あるいは斜め後方に位置取ること。
- *競技場内外での唾や痰をはくことは極力行わないこと。
- *タオルの共用は行わず、マイタオルを使用する。
- *飲食については、指定場所以外で行わず周囲の人となるべく距離を取って対面を避け、話は控えめにする。
- *飲みきれなかったスポーツドリンク等は、持ち帰ること。

- *高校生が学校単位で参加しているときは、高体連ガイドラインも遵守する。